



一輪ほどの…

校長 熊野真司

上校庭の保健室前の植え込みに、白と紅のかわいい花をほんの数輪咲かせた二本の樹があります。「平成記念植樹」という碑がありますので、平成に年号が変わった時、植えられたものでしょう。紅白の梅の樹です。紅白梅というと尾形光琳の「紅白梅図屏風」が有名です。実物は大変な迫力を感じるもので、その存在感と表現力に圧倒されたのを覚えています。そして紅白の色はおめでたい時に使われる色です。この上校庭の紅白梅が咲き始めると、いよいよ卒業期が近くなったのを感じます。

万葉集にも梅に関する歌が多く詠まれていて、古くから愛でられていたのが分かります。梅は、奈良時代に遣隋使か遣唐使が持ち帰ったらしいということですが、いつしか日本の風土に合った樹木として根付いてきました。幹がごつごつしているのにかわいらしい花が咲くところや、厳冬に耐え、百花に先駆けて咲くところが日本人の心を捉えたのでしょうか。前述した「紅白梅図屏風」でも、左にある白梅の老木と右にある紅梅の若木が川を挟んで見事に画かれています。左右と言えはこんな話もあります。京都御所に「左近の桜」と「右近の橘」が植えられていますが、この桜はもともと梅であったということです。村上天皇の時、その梅が火災で倒れてしまい、紀貫之の娘の梅を献上させたところ、「勅なればいともしき鶯の宿はと問わばいかが答えん」（天皇の命令とあれば、この木を差し上げます。しかし、この木に来る鶯に、自分の宿はどうなったのかと問われたならば、どう答えたのでしょうか。）という梅との別れの歌を娘は枝に結びつけました。この歌に心を打たれた天皇は、梅を娘に返し替わりに桜を植えたという故事が残っています。また、「梅に鶯」は、取り合わせの良いこととしても遣われます。

合格祈願で人気のある湯島天神では白梅が有名です。泉鏡花の小説『婦系図』を原作として映画や歌謡曲になった「湯島の白梅」を知っている人は少ないと思いますが、学問の神様として知られる菅原道真公が、こよなく梅を愛していたことから梅が多く植樹されたそうです。3年生で合格祈願に行った人がいるかもしれませんね。梅だけに、塩梅良く全員の進路が決まることを祈っています。

「梅一輪一輪ほどの暖かさ」松尾芭蕉の弟子、服部嵐雪の詠んだ句です。校庭の梅を見て、一輪増える度に少しずつ春が進んで来たなと感じています。生徒の心の中にも、一輪ずつ温かい心の花が咲くように成長してくれば良いなと思っています。



《世界ともだちプロジェクト 中央アフリカ共和国》

アフリカの中央付近に位置した、人口は約480万人ほどで、1960年8月に独立した後クーデターが繰り返されてきました。2016年3月に憲法国民投票、大統領選挙、国民議会選挙が実施され、民政復帰した共和制の国です。バンダ族、バヤ族、サラ族など多くの民族を抱え、言語も公用語であるサンゴ語やフランス語の他に各部族語が遣われています。面積は日本の1.7倍ありますが、内陸国なので海はなく、国土の大半は高原台地になっています。主要産業は農業（綿花、コーヒー、たばこ）や鉱工業（ダイヤモンド、金）ですが、内陸国のため貿易は近隣諸国経由となり、輸送コストが高くなるため経済的に不利といわれています。リオデジャネイロオリンピックでは、陸上、ボクシング、競泳、テコンドーに参加しました。

